

ずいひつ No.112

2015年7月25日発行

旅してみよう「おもしろい」神社仏閣 その2

愛知県の「おもしろい! (大阪弁)」神社仏閣、第2回です。今回は、12年に一度大賑わいを見せるという、名古屋市北区の羊神社を紹介します。



名古屋市北区「羊神社」

名古屋市北区辻町にある羊神社は、延喜式神名帳に「尾張国山田郡羊神社」と記された式内社で、全国で「羊」と名のついた神社は、ここと群馬県安中市の羊神社の2つだけだそうです。その「羊」にあやかろうと、未年には大勢の人でにぎわいます。

羊・羊・羊

普通の住宅街の中に、こぢんまりと羊神社があります。その境内には、いたるところに羊の意匠が！まずは狛犬ならぬ狛羊。そして手水舎にもまた羊。羊の口から水が出ています…。しかしなぜ「羊」神社という名がついたのでしょうか？



羊太夫と羊神社

昔むかし、今でいうと群馬県^の多野郡というところに「羊太夫」と呼ばれる人がいました。羊太夫は、名馬に乗り、神通力を使う従者^{やつかのこはぎ}八束小脛とともに、空を駆けるように大和の都へ日参(!)していたのだそうです。

都にのぼるときに立ち寄っていたゆかりの屋敷が、この地(現辻町)にありました。人々が平和に暮らせるよう、「人心を安らかに」という願いをこめて羊太夫が火の神を祀ったといえます。そしていつしか、羊神社と呼び称えるようになったと伝えられているそうです。

「火災除」の神として宗敬者も多い

羊神社のある辻町も、「ひつじ」から「ひ」をとって名付けたともいわれます。羊神社は、「火災除」の神として宗敬者も多く、名古屋大空襲には、辻町にも多くの焼夷弾が投下されましたが、ほとんど火災にいたらず焼失の難をのがれることができたのだとか。

まだ5カ月は未年です

12年に一度大賑わいを見せる羊神社。私が訪れた三が日はさすがにものすごい人出でしたが、夏ともなると、さすがに落ち着いています。境内の羊(の意匠)を探しながら、ゆったりとした時間を過ごしてみたいかでしょうか♪